千葉県立浦安高等学校

学ぶ意欲を喚起する生徒支援システム開発

Ⅰ　はじめに

本校の教育的課題として、基礎学力の未定着、学習意欲や規範意識の低下、学校不適応などがあげられう。こうした課題に対応すべく、平成１６年度に県より自己啓発指導重点校の指定を受け、基本的生活習慣の確立、規範意識や社会性の定着を目指した取り組みを進めてきた。（資料「浦高レボリューション」参照）

さらに、平成１７年度からは、更なる学校教育力の向上を目指し、県の「先進的な高等学校づくり（パイロット・ハイスクール）推進事業に取り組み、「学ぶ意欲を喚起する生徒支援システム」の開発に取り組んできた。（資料　浦高教育ビジョン参照）

本事業は、自ら学ぶ意欲は、豊かな人間関係が構築され社会性や心が育まれる中で実現されるという考えに立ち、学習面・精神面双方からアプローチした「学ぶ意欲を育むためのカリキュラム」を作成・体系化し、全校的に実践したものである。

Ⅱ　事業の目的

本事業は、社会の一員として充実した人生を創造することの出来る生徒を育成することを目標に、入学から卒業までの３年間にわたり、計画的・体系的に学習面・精神面をサポートする「支援システム」の開発を目指している。

社会性の育成を基盤とした様々な支援の実践を通して、自律の心やコミニュケーション能力、社会に通用する価値観を育み、自らの進路希望を実現させるための根源である「自ら学ぶ意欲を喚起する」ことをねらっている。

Ⅲ　事業の内容

１　研究組織

校内に、校長を長とするパイロットハイスクール推進委員会を設置し、校外からは、学識経験者や教育関係者５名を委員として委嘱した。また、校内からは、校長・教頭・部長主任６名及び各教科から１名づつ計８名の委員を選出し、全校をあげ取り組んだ。

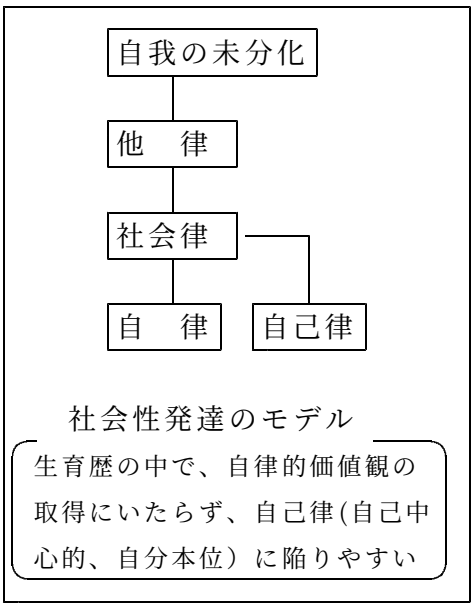
また、スクールカウンセラーや大学関係者にも必要に応じ委員会に協力して頂いた。

- 学　外　５名
  - 教育関係学識経験者（１）、臨床心理学識関係者（１）
  - 教育委員会関係者（１）、中学校関係者（１）
  - 保護者会・同窓会関係者（１）
- 学　内　１４名
  - 校長、教頭、事務長、教務主任、生徒指導主事、総務部長(計６）
  - 各教科より１名　（計８名）

2　研究の経緯

(1)研究のコンセプト　社会性の育成

本校生徒たちの中には、自我が未分化のため自己中心的で、他人の存在を認知する能力が不足しがちな生徒が見られる。このため他の人の意見をきちんと受けれることが出来ず、他者とのコミニュケーション能力が不足していることが多い。また、社会的な訓練があまりされてこなかったため、社会性も未発達で、他からの学びを受け入れる姿勢に欠けたりする生徒も見られ、学力向上の根源となる「学ぶ意欲」が育ちにくい。



こうした問題は現代社会における一般的な問題でもあり、克服すべき課題でもある。1999年(平成10年)青少年問題審議会が指摘した、○社会の基本的なルールを遵守しようとする意識が希薄である。○自己中心的で、善悪の判断に基づいて自分の欲求や衝動を抑えることができない。○言葉を通じて問題を解決する能力が十分でない。○自分自身に価値を見い出し、自尊の感情を持つことができない。などの課題を解決するため、学校生活の中に、様々な体験活動を設定し、その中で社会性の育成を図ることは重要であり、それらを通じて生徒の学ぶ意欲を喚起させ、社会の一員として充実した人生を創造することのできる生徒の育成に繋がっていくと考える。こうした考えのもと、次の２点について取り組んだ。

①学校生活の様々な場で社会性を身に付けさせ、価値観の獲得とそれらを前提とした学力の向上を目指す「社会性育成プログラム」を開発する。効果的な実践となるよう、その順序立て（シークエンス）と優先順位を考え、プログラム配列の検証を行う。

②全職員が、社会性の育成の重要性を認識し、共通の意識に立って、あらゆる領域の協力態勢と、即時批正の柔軟性を持って「学ぶ意欲を喚起する生徒支援システム」を具体的に構築・実践する。

(2)　取り組みの経緯

①平成１７年度は、委員会で活動の方向性や実施上の問題点等の検討を行った。基礎学力の育成を図るための基礎講座や生徒の興味関心の高い講座「チャレンジ・レッスン」を設け、総合的な学習の時間で実施することとした。また、各教科等では、講座開設に向けて様々な教材の開発を行った。

②平成１８年度は選択講座を中心とした「チャレンジ・レッスン」を総合的な学習の時間に実施した。実施結果を評価した結果、本校生徒に身に付けて欲しい「自尊感情」と「人間関係能力の豊かさ」を育むため、社会性育成プログラムを従来のチャレンジレッスンに加え、平成１９年度より実施することとした。

③平成１９年度は、心と学びの両面を踏まえた学習意欲喚起のためのプログラムを、前後期の２期に分けて実施した。前期は、社会性育成のための「キャリア・サポートプログラム」、後期は、選択講座を中心とした「チャレンジ・レッスン」を実施した。【資料１参照】

３　研究開発の概要

(1)学ぶ意欲を喚起する２つのプログラム

①豊かな人間関係の構築や思いやりの精神の育成プログラム(ｷｬﾘｱ･ｻﾎﾟｰﾄﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ)
SST、卒業生・外部組織・地域の教育力を活用したキャリア形成に係る学習

②学ぶ意義や楽しさが分かる実践的学習プログラム(ﾁｬﾚﾝｼﾞ･ﾚｯｽﾝ)
教養分野・資格取得・進路対策等のテーマ別講座、教科学習の基礎的・発展的学習、資格取得に係わる講座

(2)具体的研究事項

上記プログラムを開発し、円滑に実施するため次の事柄に取り組んだ。

①心の育成を支援する取り組みをいかに効果的に行うか、より高い効果を生み出すための教材の開発と配列のあり方を研究した。

②「社会の一員として、充実した人生を創造することのできる生徒」の育成を目標に、指導内容の共通化や融合を図り、校内組織を横断的に組合わせる研究を実施した。

③高等学校における道徳性・社会性の陶冶に関する教材を開発した。（成長へのモチベーション・授業の規律・豊かな自己形成・自己理解・豊かな人間関係作り・マナーやモラルの向上・豊かな人間性・社会性の向上など）

④社会性の陶冶に関するＳＳＴの実施とアセスメントの充実を図った。(資料４参照)
（学年単位での展開や少人数での展開。ＳＧＥの併用など）

⑤大学等学外の関係機関と連携し、ＳＳＴ・ＶＬＦ等の教材開発とアセスメントを実施し、高等学校では運用実例の少ないこれらシステムの有効性を検証した。

⑥広報活動はポートフォリオをもって行い、取り組みの様子をＨＰ等で発信した。

⑦「生徒支援システム」を運用・評価した。アセスメントを実施し改善策を、次年度にフィードバックし、より汎用性のある完成度の高いシステムへの移行を図った。

４　展開の概要（資料２~３参照）

(1)展開の位置づけ

①総合的な学習の時間等を使い、年間約３１時間を使い、全校をあげて実施した。

②前期（４月～９月）キャリア・サポートプログラム、後期（１０月～３月）チャレンジ・レッスンと２期に分け実施した。

③各プログラムの配置は、年間計画の中に適時性を配慮して割り振り、心（人間力）のサポートと、学力面のサポートとをバランスよく行い、授業の規律を踏まえた、生徒の意欲・関心を喚起する授業を展開した。

④心の指導を加味したキャリア・サポートプログラムとチャレンジ・レッスンに関するガイダンスを実施した。（意義と取り組み方、チャレンジ・レッスンの目指すもの、授業のマナー、講座説明、受講希望調査等のガイダンス）。

⑤心の成長を図るため、生徒指導部・教育相談係・環境保健部、総務部、進路指導部、進路指導部、同窓会、大学等の外部組織と連携して取り組みを行った。（性の講演会、心の講演会、ＴＥＧ、ＤＶに関する講演、浦高ＯＢ講演会、進路適性検査、等）。

⑥集団生活の向上や人間関係能力の向上に関するものを実施した。（ＳＳＴ・ＧＷＴ）。

⑦「社会性育成プログラム」に基づく講座を１９時間実施した。（前期「キャリアサポートプログラムに7時間。後期「チャレンジ・レッスン」に１２時間）

(2)キャリア・サポートプログラム　　前期（４月～９月実施)、

社会性の育成や就職試験、進学に関するワークシート形式の教材をパイロット・ハイスクール推進委員会で独自に開発・実施した。

①性の講演会

助産師川島広江先生の講演を、ゴールデンウイーク前と夏休み前の２回実施した。将来の親となる高校生に対し、生命の誕生と大切さ、お互いを尊重しあう男女関係のあり方などについて学んだ。

②交通安全講話。生徒指導主事による講話

長期休業前の３回にわたって実施。県より講師を招き交通安全講話を実施した。さらに生徒指導部による生徒指導講和を実施。自転車による交通事故の怖さと失われる命の尊さ、加害者としての責任、保険加入の社会的責　任などについて学んだ。

③全校展開によるＳＳＴ(ｿｰｼｬﾙ･ｽｷﾙ･ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ)

法政大学と連携し、体育館で全校生徒を対象とした聴くスキルを中心としたＳＳＴの授業を行い、ロールプレイや意見交換を行った。（資料４参照）

④ワークシートによる演習　(資料５参照)

「企業が求める人物像」「実際の就職試験にトライしよう」「さらば悲しみの性」「小論文にトライしよう(横書き原稿用紙の使い方)」「手紙の書き方１・２」等についてのワークシートを実施した。

⑤パイロット・ハイスクールのガイダンス及びまとめ

ＶＴＲを視聴し、支えあう社会の構築を訴えた感動的な教材を用い、社会性を持つことの大切さを学んだ。

⑥グループワークの実施

ＧＷＴ等・「キャリアサポートプログラム」で学んだことを実践する場としてグループワークを実施した。

⑦ＯＢによる講演会と授業の実施

同窓会の協力を得て、各界で活躍する卒業生を招き、講演会と授業を実施した。第１部は、bayfm のＤＪとして活躍している本校ＯＢ「KOUSAKU」氏による講演を実施した。第２部は、３年生の各クラスで、本校ＯＢ８名による講演と意見交換を中心とした先輩による授業を実施した。卒業生の熱いメッセージは在校生に多くの感動を与えた。

(3)「チャレンジ・レッスン」後期（１０月～３月実施）

各学年、８つ程度の選択講座を１０人～２０人の受講者によって展開し、就職に役立つ免許・資格（英検、漢検、危険物取り扱い者等）取得に関わる講座。人間関係能力の向上（ＳＳＴ、ＳＧＥ等）に関する講座。基礎学力・発展的学力を身につける講座のカテゴリーに分け、生徒個々の興味に基づいて選択し展開した。

開講講座名一覧　（　）内は人数　　(資料６参照)

１年	浦安學(20)、パソコン検定(20)、実用書(20)、SST:ｿｰｼｬﾙ・ｽｷﾙ・ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ(10)、ウォーキング(20)、 数学Ⅰ演習(20)、パズル(20)、式の学習(20)、英単語にチャレンジ(20)、 大学受験のための英単語(20)、基本的な英単語の学習(20)
２年	ジョギングを楽しもう(20)、 健康を考える(20)、文学作品『赤毛のアン』を観る～英語を聴く力を養成～(20)、ｽﾀｰﾀﾞｽﾄ☆ﾌｧﾝﾀｼﾞｰ(10)、 浦安高校植物図鑑づくり（15)、ｷｰﾎﾞｰﾄﾞ(ﾋﾟｱﾉ)の基礎（10)、 夏目漱石「こころ」を読む(20)、 世界の地理(15)、 数Ⅰ演習(20)、 ロボット製作～電子工作の基礎（15)
３年	危険物取扱免許を取ろう(20)、 ﾌﾟﾚｾﾞﾝ能力養成講座(20)、 英語の語彙を増やそう(20)、顕微鏡ﾏｽﾀｰ講座（15)、 書写と読解で楽しむ「奥の細道」(17)、 名作を読む(20)、 ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ(20)、 やさしい『生理学』入門(15)、 切り紙講座(20)、世の中の常識ﾏﾅｰ豆知識(20) ｾﾝﾀｰ入試対策英語(20)

チャレンジレッスン（電子工作の基礎）

ＳＳＴ（ｿｰｼｬﾙ・ｽｷﾙ・ﾄﾚｰ ﾆﾝｸﾞ）

Ⅳ　事業の成果

本校の「学ぶ意欲を喚起するシステム」づくりは、自己啓発指導重点校としての取り組みと強くリンクしながら、当初は学習面からのアプローチから始まり、社会性の育成プログラムを付け加え開発されてきた。３年間の試行錯誤の結果、学校全体で取り組む「学ぶ意欲を喚起するシステム」が動き始め多くの成果をあげている。

(1) 汎用性のあるプログラムの開発ができた。

担当者の負担感の少ない汎用性のある取り組みができた。「キャリアサポートプログラム」では、１時間単位の学習シートを作成することにより、ＬＨＲ等においても誰でも容易に活用できるようになった。また、「チャレンジ・レッスン」は、指導者の個性が反映するものの、講座自体を教師と生徒が共に作り上げていくというコンセプトを大事にしたことが、普段の授業や集団活動にも活かされ良い影響を与えている。

(2) 活動の連続性や関連性に配慮したプログラムが開発できた。

前期（４月～９月）には、授業のマナー、心の成長を図るもの、集団生活の向上や人間関係能力の向上を図るものなど、社会的価値観の陶冶に関するプログラムを実施した。次に、「社会性育成プログラム」を実施し、道徳的指導内容を指導した後に、生徒指導の機能を授業や学校生活全般に活かすことを試みた。後期は指導した事項を活かして発展的に深めていくことを試みた。

(3) アウトソーシングを意識的に導入したプログラムが開発できた。

「性の講演会」「ＤＶに関する講演」は、外部講師を活用しながら環境保健部に運営

してもらい、「心の講演会」は教育相談委員会、また、「浦高ＯＢ講演会・授業」は生徒指導部と「同窓会」のチャンネルを活かして地域の教育力を導入する形で実施した。

「ＳＳＴ」も法政大学との連携で専門的なアセスメントを踏まえ効果的に実践できた。

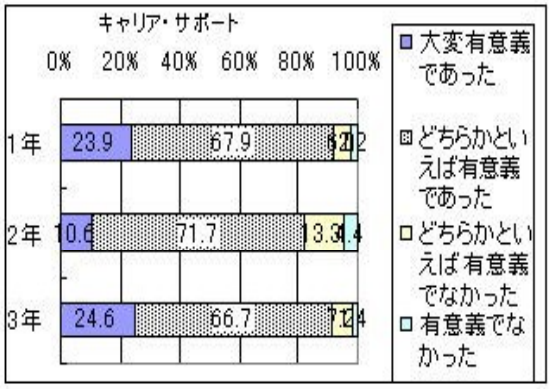
(4) 感動を与えるインパクトのある企画が出来た。

「性の講演会」「生徒指導講話」「浦校ＯＢ講演会・授業」などは、生徒達に感動を伴う強いインパクトを与えた。

法政大学との連携によって展開された全校展開のＳＳＴは、高校における初の SST の実践として、メディア等にも紹介された。(資料４参照)

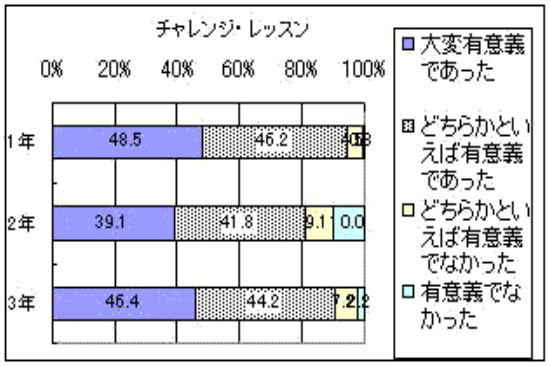
(5)生徒に支持されるプログラムが開発できた。

生徒アンケートによれば、キャリア・サポートが有意義であったと回答した生徒は、全学年では、回答した３８８人中３４２人（91.8%)、チャレンジ・レッスンについては、回答者数３８８人中３３９人（87.4%)からの高い指示を得た。学年ごとの評価結果を右に示す。また、性の講演等の感動を伴ったプログラムに対しても極めて肯定的な評価を得た。（資料７参照）



(6) 社会性の定着が見られた。

１年生のＳＳＴを受講した生徒の中には、学んだ内容を他の生徒に発信する場面も見受けられる。人と接するときの笑顔の大切さや、「地ベタリアン」（廊下に座って過ごす姿など）のみっともなさの認識など、「社会律」に対する理解が生まれ、社会性を意識する生徒が徐々にではあるが増えてきている。



Ⅴ　おわりに

浦安高校としての「学ぶ意欲を喚起する生徒支援システム」の方向性が定まりつつある。次年度も、生徒の評価が高かった感動を伴うプログラムに着目し、「こころを揺さぶる社会性育成のプログラム」となるよう取り組みたい。

なお、本システムを展開するに当たり、様々なチャンネルを通して、多くの方々のご協力をいただきました。講演等のプログラムが生徒に感動を伴った強いインパクトを与え、熱いメッセージが伝わりました。また、連携・ご支援をいただきました大学・研究機関による指導助言も、生徒たちの成長に活かすことが出来ました。これこそが浦安高校をしっかりと支える外からの教育力の存在であるといえます。同時に常に浦安高校の発展にご尽力いただいております本校同窓会、ＰＴＡの皆様の素晴らしいサポートにより「生徒支援システム」が構築されたことに感謝いたします。